



「ヤマナハウス」前にて。12名のメンバーは、おもに東京や神奈川在住で、職業は法律、映像、デザイナーなど多種多様。月二回ほど集まっては、お化け屋敷のような状態から掃除して、寝泊りやミーティングができるように改修した。休耕地の土壌改善も進めている。

# 里山環境を改善しながら、 東京の仕事も継続中。 マイペース二拠点生活

「ヤマナハウス」発起人  
なかもりまさし  
**永森昌志さん**

南房総を主軸に東京との二拠点生活を実践中。  
東京のシェアオフィスEYEONの運営やウェブ構築の仕事に携わりつつ、古民家や里山シェアハウスなど、里山再生のプロジェクトを手がける。

## 二拠点生活のきっかけは 都会からの脱出

東京で会社員をしていた永森昌志さんが、館山市にアパートを借りたのは2008年頃。平日は都内で働き、月二回ほど館山市で過ごす二拠点生活をスタートさせた。「当時は仕事が忙しくて大変だったので、エスケープする場所がほしかったんです。館山は、都内の家から通うにはほどよい距離だと思っただけでした」

その後、友人4人と共同で千倉の別荘地に一軒家を借りた。「シェアハウスにしたのはおもに経済的な理由です。館山での家賃は3万円くらいだったので、月二

回の滞在だと単純計算で一泊1万5千円。ちょっともったいないので、友人に声をかけたんです。家賃6万を4人で割って1万5千円。それで家は広くなったし海も見える。これはいい、と（笑）」

千倉の家に通ううちに、地元NPOが主宰する共同オーナー制の田んぼを借りて米づくりを始めた。「ここで出会った友人たちもシェアセカンドハウスに集まるようになって。しばらくして、みんなで古民家をリノベーションしてみたいねという話になったんです」

そんなとき知り合いから、築300年になる物件を紹介された。物件は、畑と山も含めて約8千平米の敷地内にある。これを東京や



神奈川県在住の12人のメンバーで借りて「ヤマナハウス」と名づけ、長年空き家だった家の改修、荒れ放題だった畑や山の開墾、整備などを進めている。目ざすは、里山環境の再生だ。ゆくゆくは綿花を育て糸をつむぎ、布を製作したり、アーティスト・イン・レジデンスとしての活用も検討している。

### 地元の人との交流が 徐々におもしろくなった

ヤマナハウスを立ち上げる少し前、永森さんは生活の軸足を南房総市に移した。ヤマナハウスから車で10分ほどの場所に家を借り、現在の本業であるウェブ構築やシェアオフィス運営をしつつ、家の改修や野良仕事をする毎日だ。「育てたりつくったりするのは好きですよ。でも、自給自足的な田舎暮らしにこだわっていません。大工にお願いすることもあれば、買ってすませることも。実際、ここに来てからもパソコン仕事をしている時間が圧倒的に長いです」そんな永森さんが、東京から通っていた頃は、あえて地元と交流しないようにしていた。「そもそも隠れ家がほしくて知り合いのいない房総を選んだんです

から。ちゃんと地元とつながりができたのはこの1、2年ですね。ヤマナハウスを始めて腹をくくったというか(笑)。いまは、ご近所づきあいが楽しい」

挨拶まわりをしてヤマナハウスへの理解を得た。いまでは、地域の盛り上げ役を期待されている。市から依頼され、首都圏在住者を対象にした南房総市体験ツアーの企画にも携わっている。

「移住者ならではの俯瞰した視点为重宝されているのかな。餃子から丼ものまでイワシづくしの専門店とか農家が営むレストランとか、地元の人にとってはなんの変哲もないものを、僕や東京の友人がおもしろがるのが新鮮みたいです」

上京は、だいたい月2回。2日ほど滞在し、本業の打ち合わせをしたり、仲間と共同設立した新宿のシェアオフィスに足を運んだり合間に友人と会ったり、話題の映画を見たり美術展を訪れたり「東京でなければできないこと」を楽しむ。

「比率で言うと、房総が8で東京が2。いまはこれくらいのパランスが心地いいですね」

肩肘張らずマイペースに、里山暮らしを満喫している。



こんなイイところ

### 永森さんに聞いた 千葉ぐらしあれこれ

#### 現在の生活の満足度は？

東京だけに住み続けていたときと比べると圧倒的に高いです。

#### 移住にかかったお金はいくら？

5～6年で徐々にシフトしてきたので、「初期費用いくら」などと具体的には言いにくいんですが……。最初に館山にアパートを借りたときは、毎月、家賃+東京との往復交通費(1回5000円程度)がかかりました。いま住んでいる一軒家(3Kの平屋、畑と裏山付き)の家賃は3万5千円です。

#### 南房総のよいところ

海も山も農地もあって、東京も近いところ。人々もおもしろい。

#### 田舎暮らしに興味があっても 踏み出せない人にひと言

僕のように二拠点居住をルームシェアから始めると、心理的・経済的な負担を抑えられるのでおすすめ。ウェブ環境が整っているので、とくにIT系、クリエイター系なら不自由を感じずに働けるのではないのでしょうか。



(右上から時計まわり) 床板を剥がすと立派な大引(おおびき)が渡してある。大工曰く「材がいいので腐りにくい」とのこと/永森さんの住まいは薪ボイラー給湯。毎日、火を起こす/新宿で運営しているシェアオフィスHAPON/メンバーや友人が集まってバーベキューなどを催すことも/台所は、改装中。